

YNUコミュニティカレッジ



YOMIURI ⊗ YNU

# これからの流域圏を考える

— 神奈川流域圏を中心に、自然環境と社会環境の視点から —

主催：横浜国立大学公開講座委員会  
共催：読売新聞横浜支局

**YNU** 横浜国立大学  
YOKOHAMA National University

総論  
第1回

5月29日(土)

横浜国立大学大学院環境情報研究院教授 佐土原 聡

地球環境時代の流域圏の重要性と課題

地球環境問題や地域再生などのさまざまな課題に取り組む上で、いま改めて流域圏が見直されています。なぜ流域圏が重要であるのか、また身近な神奈川の流域圏について、ダイナミックな自然の営みや、グローバルに展開する人間活動の影響もふまえて将来のあり方を考える、など、本公開講座全体のねらいや構成、流れにかかわる内容をお話します。



総論  
第2回

5月29日(土)

横浜国立大学教育人間科学部教授 下城 一

近代社会の環境観と倫理を考える - 環境倫理 -

環境倫理学の立場から、文明史的視点も交えてお話します。花鳥風月を愛でる日本の文化的特性は日本語の特性に即しており、その感性と、里山等の自然、特に水圏の伝統的利用とは無縁ではありません。何故それが西欧近代の、キリスト教から人間主体への変化を導いた自然科学文明の許では破壊を免れないのか、その理由を哲学倫理的に再考します。



自然環境の視点から  
第3回

6月12日(土)

横浜国立大学大学院環境情報研究院教授 有馬 眞

神奈川流域圏の地質の成り立ちと地球科学的リスク - 地球科学 -

神奈川拡大流域圏は、フィリピン海プレート、太平洋プレート、本州プレートの会合部に位置し、地殻変動が進行している地球科学的に特異な地域です。丹沢山地を例に、地質の成り立ちと地殻変動に起因する地球科学的リスクについて考えてみたいと思います。



自然環境の視点から  
第4回

6月12日(土)

東京農工大学名誉教授 木平 勇吉

丹沢の水源森林生態系とその保全再生 - 森林生態学 -

今、丹沢の森林生態系は著しく攪乱して深刻な環境破壊が進んでいます。ブナ原生林の枯死、土壌の侵食、シカの超過密化、植林地の荒廃、外来種の侵入などです。その現状と原因を調べて対策を考えます。そして、市民・企業・研究者と行政とが協働で進めている保全再生活動を説明します。健全な森林生態系が戻るかどうか、丹沢は岐路に立っています。



自然環境の視点から  
第5回

7月3日(土)

横浜国立大学大学院環境情報研究院教授 大野 啓一

神奈川県植物生態系を考える 地域再生に係わる緑環境の植生生態学的評価 - 植生生態学 -

神奈川県の中央を流れる相模川は、数多くの支流を有し県内最大の流域圏を形成しています。同水系の支流の一つである中津川は、自然資源の宝庫である丹沢山地に源を發し、相模原台地が広がる中流域で相模川に合流し相模湾に流れ込みます。この相模川水系の流域に現存する緑地環境の概要とその保全・管理の問題について植生生態学的観点から解説します。



自然環境の視点から  
第6回

7月3日(土)

横浜国立大学大学院環境情報研究院教授 金子 信博

森林土壌生態系と物質循環 - 土壌生態学 -

生態系は、生物とそれを取り巻く環境との相互作用の上に成り立っています。なかでも、生物の体を構成する元素は生物の種類が違って共通しており、色々な生物の間を移動しています。森林では植物と土壌との間に大きな物質循環が成り立っており、人手を加えなくても樹木が育っています。生物が共有する元素の視点から、流域圏を考えてみます。



自然環境の視点から  
第7回

7月10日(土)

横浜国立大学大学院環境情報研究院教授 菊池 知彦

神奈川流域圏と相模湾の生態系 - 生物海洋学 -

神奈川県は東京湾と相模湾に囲まれ、主要な河川は多摩川や鶴見川などが東京湾へ、境川、相模川、金目川、酒匂川、早川などが相模湾へ繋がる流域圏を形成しています。本講義では相模湾西部沿岸域を中心に、その海洋環境とそこに流入する酒匂川と早川の河川水の影響を解説し、流域圏の終点である沿岸域の役割について考えます。



社会環境の視点から  
第8回

7月10日(土)

横浜国立大学大学院工学研究院教授 高見沢 実

人口減少社会と地域再生 - 都市計画 -

「流域圏」という言葉は、実は今から30年ほど前の「第三次全国総合開発計画」における主要な計画概念でした。そこで本講義では、今、「流域圏」を考える意味は何なのか、当時と何が異なっているのか、あるいは同じなのか、私たちはこれからどう行動すればよいのかなどについて、都市計画の立場から考えてみたいと思います。



社会環境の視点から  
第9回

7月17日(土)

横浜国立大学経済学部教授 長谷部 勇一

流域圏の経済活動と環境連関 - 産業連関分析 -

世界的には、水不足・水汚染など水問題は深刻化し、「21世紀は水の世紀」といわれています。この背景には、気象条件などの自然要因のほか、各国の産業構造、貿易構造という経済的要因も絡んでいます。本講義では、神奈川県を対象にして、水問題と地域経済の産業構造変化との関連を日本の他地域や国際経済との関係にもふれながらお話しします。



社会環境の視点から  
第10回

7月17日(土)

横浜国立大学経済学部非常勤講師 其田 茂樹、清水 雅貴

地方新税の動向と水源環境・かながわ水源環境保全施策 - 地方財政 -

地方分権の流れの中で、地域で独自に課税する権利を行使した試みが行われてきました。それらのうち、もっとも定着したものひとつに、いわゆる「森林(水源)環境税」があります。本講義では、神奈川県で導入されている「かながわ水源環境保全税」を取り上げ、その特徴を明らかにしながら、今後の課題を考えてみたいと思います。





近年ますます深刻化している地球環境問題について、「自然環境」と「社会環境」の視点から、特に、身近な流域圏である神奈川拡大流域圏を中心として取り上げます。専門が異なる豊かな経験を持った11名の講師が、多面的に講演します。是非ご注目ください。

また、本学は地域の皆さまにキャンパスを開放しています。今回の公開講座を機に、本学の緑あふれる広大なキャンパスへ一度足をお運びください。



横浜国立大学長  
鈴木 邦雄



読売新聞横浜支局長  
佐伯 和宏

優れた知性が集まる大学は、地域の貴重な財産だと思います。その代表選手「横浜国立大学」と連携し、連続市民講座が実現します。テーマは「地球環境問題」で、記事キャンペーン「環境ルネサンス」を展開中の読売新聞社としては嬉しい限りです。一線の講師11名が海洋、河川、人工的な水の移動に着目し、地域を「流域圏」ととらえたうえで、環境保全や地域再生について熱く語ります。ご期待ください。

**参加費は無料です。たくさんの方の受講をお待ちしております。**

- 開催日時 5月29日(土)、6月12日(土)、7月3日(土)、7月10日(土)、7月17日(土) 13:30~16:45
- 会場 横浜国立大学 教育文化ホール
- 受講対象 一般の方
- 受講定員 250名
- 受付期間 平成22年4月1日(木)~7月15日(木) ※先着順、定員に達し次第締め切らせていただきます
- 申込方法 横浜国立大学WEBサイト <http://www.ynu.ac.jp/event/apply/> からオンラインで申し込みできます。  
横浜国立大学WEBサイト > 産学・社会連携 > 公開講座のご案内  
その他、FAX・郵送・電話にてお申し込みできます。下記項目を記載の上、お申し込みください。  
・お名前 ・フリガナ ・性別 ・ご住所 ・電話番号 ・FAX番号 ・メールアドレス ・年代 ・今後の本学公開講座案内の送付希望の有無  
お申し込みいただいた方には、ご案内を送付いたします。  
※お知らせいただいた個人情報は、公開講座受講にあたって必要な連絡、今後の公開講座案内等の送付(「今後の本学公開講座案内の送付希望の有無」の欄を有にした場合)及び、今後の公開講座運営上の参考にするための統計資料作成以外には使用いたしません。

● 駐車場は数に限りがございますので、ご来学の際は公共機関をご利用願います。 ●

【問い合わせ先・申込先】

横浜国立大学 総務部広報・渉外室 〒240-8501 横浜市保土ヶ谷区常盤台79番1号  
TEL:045-339-3016 FAX:045-339-3179 E-mail:ynukouza@ynu.ac.jp

